

2024 年度技術士 CPD 審査 報告

CPD 審査委員会

技術士 CPD 活動実績は、自己の責任において資質の向上に寄与したと判断できるものを CPD の対象とし、その実施結果を「CPD 時間算定基準」に基づき登録するものである。CPD 審査委員会は、技術士 CPD 活動の内容の質を確保するため、日本技術士会の CPD 登録システム（Pe-CPD）に登録された CPD 記録の定期抽出審査を行い、修正が必要な CPD 記録について、指導内容を審査対象者に個別で通知している。

2024 年度は下表のとおり審査を 3 回行い、それぞれ審査開始の時点で、「対象期間の CPD 時間の合計が多い順」で審査対象者を抽出して実施した。

審査実施回	CPD 記録の審査対象期間	対象者	件数_計
① 2024 年 7 月	6 か月 (2024. 1～2024. 6)	550 名	6, 408 件
② 2024 年 11 月	10 か月 (2024. 1～2024. 10)	400 名	6, 427 件
③ 2025 年 1 月	12 か月 (2024. 1～2024. 12)	300 名	4, 996 件

1. 審査方法

審査は、技術士 CPD ガイドライン Ver1. 2 の「CPD 活動の資質区分・資質項目、形態区分・形態項目」及び技術士 CPD 管理運営マニュアル Ver1. 3 の「CPD 時間算定基準、注意事項」に準拠し実施した。

審査委員 10 名により、審査対象者の登録データを 1 件毎（CPD 記録毎）に精査し、修正・改善が必要な CPD 記録については、指導内容のコメントを付けた。

2. 審査対象者の CPD 登録状況

上記 3 回の審査対象者のそれぞれ「審査開始時点」の CPD 記録の登録状況を示す。

(1) CPD 時間

CPD時間	7月審査	11月審査	1月審査
30以上 40未満	138 名 (25. 1%)	0 名 (0. 0%)	0 名 (0. 0%)
30以上 40未満	186 名 (33. 8%)	123 名 (30. 8%)	76 名 (25. 3%)
40以上 50未満	119 名 (21. 6%)	118 名 (29. 5%)	82 名 (27. 3%)
50以上 60未満	46 名 (8. 4%)	80 名 (20. 0%)	65 名 (21. 7%)
60以上 70未満	25 名 (4. 5%)	36 名 (9. 0%)	28 名 (9. 3%)
70以上 80未満	19 名 (3. 5%)	18 名 (4. 5%)	18 名 (6. 0%)
80以上 90未満	4 名 (0. 7%)	8 名 (2. 0%)	15 名 (5. 0%)
90以上 100未満	3 名 (0. 5%)	8 名 (2. 0%)	5 名 (1. 7%)
100以上	10 名 (1. 8%)	9 名 (2. 3%)	11 名 (3. 7%)
計	550 名	400 名	300 名

CPD時間 最小/最大	最小 25	最小 33	最小 35
	最大 823	最大 454	最大 225

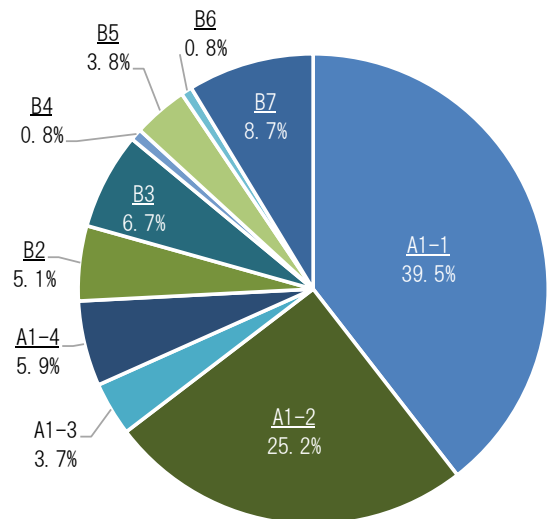
(2) 資質項目

審査対象者の登録データ（3回の審査で計17,831件）の、「資質項目別」の登録件数の割合は次のとおりである。「A1-1 技術部門全般」と「A1-2 専門（選択）科目」の登録が多くを占め、その他の資質項目の登録は、それぞれ10%未満である。

2024年度の審査対象者の登録データと比較すると、ほぼ同じ割合となっている。

資質区分・資質項目		件数	割合
A 専門的 学識	1-1 技術部門全般	7,041	39.5%
	1-2 専門（選択）科目	4,485	25.2%
	1-3 法令・規格等の制度	658	3.7%
	1-4 社会・自然条件	1,046	5.9%
B 一般共通 資質	2 問題解決	917	5.1%
	3 マネジメント	1,188	6.7%
	4 評価	142	0.8%
	5 コミュニケーション	671	3.8%
	6 リーダーシップ	134	0.8%
	7 技術者倫理	1,549	8.7%

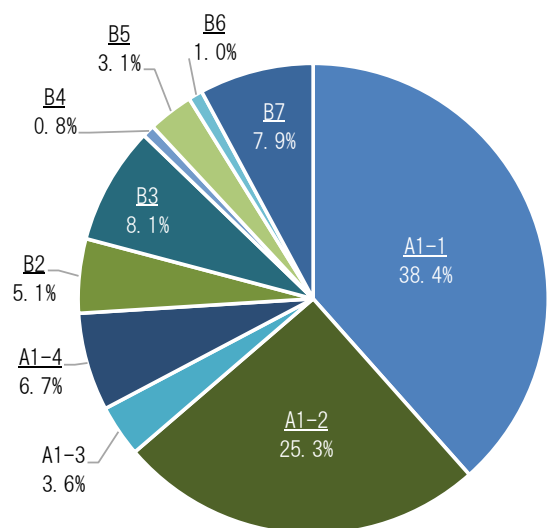
計 17,831



参考：2023年度審査（3回の審査で計21,675件）

資質区分・資質項目		件数	割合
A 専門的 学識	1-1 技術部門全般	8,331	38.4%
	1-2 専門（選択）科目	5,479	25.3%
	1-3 法令・規格等の制度	772	3.6%
	1-4 社会・自然条件	1,460	6.7%
B 一般共通 資質	2 問題解決	1,105	5.1%
	3 マネジメント	1,755	8.1%
	4 評価	183	0.8%
	5 コミュニケーション	673	3.1%
	6 リーダーシップ	212	1.0%
	7 技術者倫理	1,705	7.9%

計 21,675



(3) 形態項目

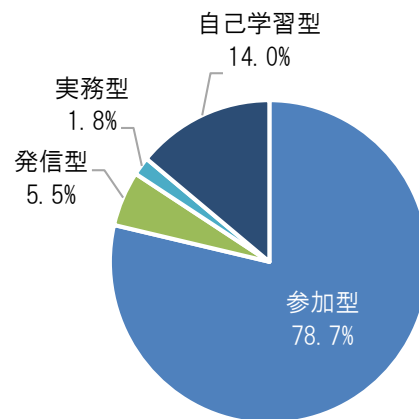
審査対象者の登録データの、「形態項目別」の登録件数の割合は次のとおりである。参加型 CPD の登録が多く、特に「1 講演・研修」の登録が大半を占めている。

2023 年度の審査対象者の登録データと比較すると、「自己学習型」が 1.7%増加し、「発信型」が 1.1%減少している。（なお、2022 年度は自己学習型 7.2%、発信型 9.9%であった。）

形態区分・形態項目		件数	割合
参加型	1 講演・研修	9,798	54.9%
	2 組織内研修	2,572	14.4%
	3 学協会活動	1,655	9.3%
発信型	4 論文・報告文	198	1.1%
	5 講師・技術指導	697	3.9%
	6 図書執筆	27	0.2%
	7 技術協力	62	0.3%
実務型	8 資格取得	118	0.7%
	9 業務成果	209	1.2%
※	10 多様な自己学習	2,495	14.0%

計 17,831

※：自己学習型

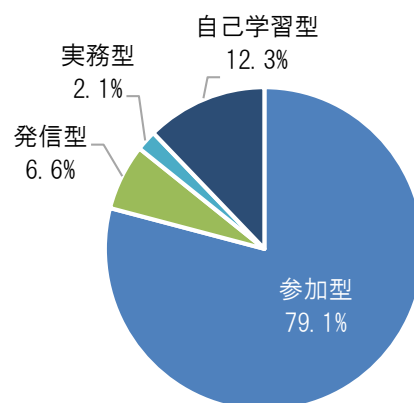


参考：2023 年度審査

形態区分・形態項目		件数	割合
参加型	1 講演・研修	12,309	56.8%
	2 組織内研修	2,678	12.4%
	3 学協会活動	2,150	9.9%
発信型	4 論文・報告文	289	1.3%
	5 講師・技術指導	1,022	4.7%
	6 図書執筆	29	0.1%
	7 技術協力	92	0.4%
実務型	8 資格取得	153	0.7%
	9 業務成果	295	1.4%
※	10 多様な自己学習	2,658	12.3%

計 21,675

※：自己学習型



3. 審査結果

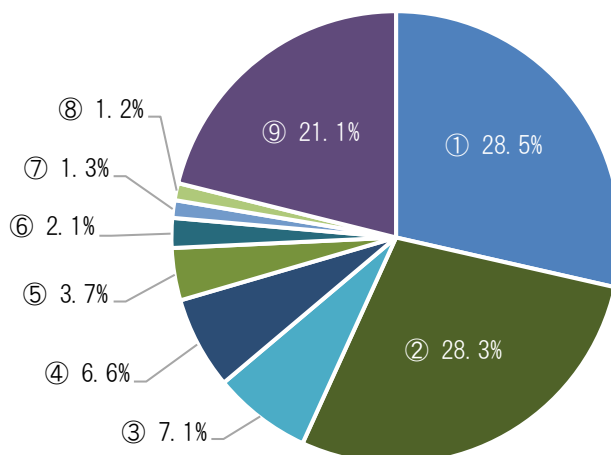
2024 年度の審査結果を示す。対象データ計 17,831 件のうち 4,518 件【25.3%】について修正・改善が必要であり、対象者計 1,250 名のうち 1,059 名【84.7%】へ指導内容のコメントを付けて通知した。

審査実施回	CPD 記録の審査対象期間	対象者/件数	うち指導内容あり
① 2024 年 7 月	6 か月 (2024. 1～2024. 6)	550 名 6,408 件	456 名 (82.9%) 1,483 件 (23.1%)
② 2024 年 11 月	10 か月 (2024. 1～2024. 10)	400 名 6,427 件	342 名 (85.5%) 1,714 件 (26.7%)
③ 2025 年 1 月	12 か月 (2024. 1～2024. 12)	300 名 4,996 件	261 名 (87.0%) 1,320 件 (26.4%)

①～③ 計 1,250 名 1,059 名 (84.7%)
17,831 件 4,517 件 (25.3%)

指導内容（コメント）の分類

指導内容の分類	1 講演・ 研修	2 組織内 研修	3 学協会 活動	4 論文・ 報告文	5 講師・ 技術指 導	6 図書執 筆	7 技術協 力	8 資格取 得	9 業務成 果	10 多様な 自己学 習	計
① CPD内容などの記入不足	761	146	24	59	101	13	9	4	10	162	1,289 (28.5%)
② 実施形態（登録コード）が異なる	316	154	111	36	88	6	13	17	6	531	1,278 (28.3%)
③ 事務的案内などCPDとして不要な記述がある	250	38	13	1	3				1	14	320 (7.1%)
④ 実時間を多く計上している	180	30	31	3	10	2	2			40	298 (6.6%)
⑤ 同一内容を重複して計上又は他と実施時間が重複	75	58	5	1	1				1	28	169 (3.7%)
⑥ CPD計上できない内容	3	34	3	2	16		1	14	3	20	96 (2.1%)
⑦ 年度の途中で通年活動をまとめて計上			56							1	57 (1.3%)
⑧ 2つの形態項目に分けて計上する必要がある	39	1	3	3	5					4	55 (1.2%)
⑨ その他	387	186	161	13	36	2	7	7	11	145	955 (21.1%)
計	2,011	647	407	118	260	23	32	42	32	945	4,517



4. 総評

2022 年度及び 2023 年度の審査を通じて確認した CPD 実績登録の状況を踏まえ、当委員会から技術士制度検討委員会へ CPD 時間算定基準・注意事項をより適切な内容とするための改訂案を提出した結果、2025 年度から新たな CPD 時間算定基準・注意事項が適用されることとなった。

今回の改訂について主な変更点を以下に示す。2024 年度の審査においても、CPD 実績登録に対する指摘事項の多い事項は前年度までと同じ傾向にあり、改訂により登録不備が減少することを期待する。

今後も、最新の基準・注意事項に基づいていない間違った登録をなくしていくために、CPD 登録の注意点などの周知を引き続き徹底したい。

- ① 「組織内研修」や「講師・技術指導」など単一の形態項目で 50CPD 時間を超える計上がみられた。
技術士 CPD においては多様な形態項目の研さんが望ましいことから、他の学協会の CPD 基準も参考にしたうえで、推奨時間（50CPD 時間）内で年度上限を設定した。
 - ◆ 組織内研修【コード 200】：上限なし → 年度上限 30CPD 時間
 - ◆ 講師・技術指導【コード 510, 520, 530】：上限なし → それぞれ年度上限 30CPD 時間
- ② 受講確認のできない「Pe-CPD 講演録画の視聴」は、COVID-19 拡大の影響に伴う臨時運用対応として講演・研修【コード 100】での計上を認めてきた経緯があるが、昨今はオンライン開催の講演会が増え、参加も容易であることに鑑み、自己学習【コード 010】に移行した。
- ③ 学術論文の口頭発表【コード 420】は 2021 年度以前の旧ガイドラインにはなく、10～15 分程度の学会発表を想定して 2022 年度に新設した項目であるが、幅広に解釈されるケースがあったため、CPD 時間換算係数を「0.4/分」から「5/件」に変更した。
- ④ ポスター発表の計上について、これまでは自己学習【コード 010】で計上するように指導していたが、他の学協会の CPD 基準も参考のうえ形態項目に「ポスター発表」を新設した。
- ⑤ 学協会の会誌購読【コード 320】を自己学習【コード 010】で計上しているケースが多くみられた。会誌購読の年度上限が 10CPD 時間で他の学協会と比べて少ないとの意見もあったため、専門誌・学術誌の購読は【コード 320】で計上した学協会誌を除き【コード 010】で計上できるようにした。
- ⑥ 長期間にわたる研修や自己学習で、実時間の妥当性が確認できないものが多くみられた。このことから、講演・研修【コード 100】および組織内研修【コード 200】の注意事項「2 日以上連続して受講した場合は、1 日ごとに分けて計上する」を「2 日以上連続または継続して受講した場合は、1 日ごとに分けて計上する」と改めるとともに、自己学習【コード 010】については「原則として 1 日ごとに計上する」ことを注意事項に追加した。ただし、自己学習について、プログラムに基づく継続学習は、1 回当たりの時間と回数を記入することで一括計上できることとした。
- ⑦ 特許出願【コード 920】について、論文・報告文の掲載と同様に「1 件当たりの CPD 時間を関係者で貢献度に応じ配分し計上する」こととした。

以上